

サクラガイ

高山達子

浜辺でサクラガイを拾うととてもワクワクします。綺麗なサクラガイを見つけると、サクラガイ拾ったと喜んでいたのですが、「これはカバザクラだね。」「これはモモノハナだね。」と言われてショックを受けました。桜色をした貝は全部サクラガイで何の疑問も持ってこなかったのですが、生物学的に言えば、多くの種を含んでいたということです。

広義のサクラガイは、主にニッコウガイ科に属する二枚貝で桜色をしています。他の貝に比べると、薄く割れやすい華奢な貝です。あるコレクターの所蔵しているサクラガイについてみてみましょう。

狭義のサクラガイ(*Nitidotellina hokkaidoensis* (Habe, 1961))は内湾性の二枚貝で桜色をしています。桜色と書きましたが、ソメイヨシノの淡い桜色から河津桜のようなかなり濃いピンク色まで様々な色をしています。学名に北海道と入っていますが、北海道で多く拾えるのでしょうか？

よく似た貝として、カバザクラガイ(*Nitidotellina iridella* (Martens, 1865))があります。この貝はきれいな桜色から黄色みのあるものなど、色彩のバリエーションがかなり豊富です。輪郭が楕円形を描き、光沢のある殻と2本ラインが特徴です。

モモノハナガイ(*Moerella jedoensis* (Lischke, 1872))はサクラガイ、カバザクラと比べるとやや殻が厚めのしっかりした貝です。全体的に細く尖っている感じで縞模様もはっきりしています。こちらの学名には江戸と入っていて、別名エドザクラと呼ばれています。

オオモノハナ(*Macoma (Macoma) praetexta* (Martens, 1865))はサクラガイとしては、かなり大型で3センチくらいのもので大きいのをみつけることができます。成長線がかなり顕著に見ることができます。

次は、私でもサクラガイとは別種だとわかる、桜色の貝です。

まずは形が特徴的なベニガイ(*Pharaonella sieboldii* (Deshayes, 1855))はちょっと横長の扁平な貝です。大きいものでは3センチ以上あり、色も鮮やかで拾うとテンションの上がる貝です。

他には絞り模様が入っているシボリザクラ(*Jactellina clathrata* (Deshayes, 1835))やヒラザクラ(*Tellinides ovalis* (G. B. Sowerby I, 1825))などがあります。

サクラガイが拾えるところとしては、鎌倉の由比ヶ浜などが有名です。よく観察会を開催する三保ではほとんど見かけませんが、南伊豆町弓ヶ浜や浜名湖弁天島など、静岡県内でも拾えるところがあるようです。



写真1 (左上)サクラガイ 2個 (右上)カバザクラ 3個
(左下)モモノハナ 3個 (右下)オオモノハナ 1個



写真2 (上)ベニガイ(左下)シボリザクラ (右下)ヒラザクラ